

参院選後の政治課題は

政治家改革

政治アナリスト
元杏林大学教授

豊島典雄

通常国会は

「政治屋は次の選挙を考え、政治家は次の時代のことを考える」(ジェームズ・クラーク)。7月の参院選で、我々は次の時代を考える政治家を選出出来たであろうか。

「経営者がなさねばならぬ仕事は学ぶことができる。しかし、経営者が学び得ないが、どうしても身につけていなければならぬ資格が1つある。それは天才的な才能ではなくて、実にその人の「品性」である」(ドラッカー)。

「人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手にして、己をつくして人をとがめず、我が誠の足らざるを尋ねべし」(西郷南洲)。

「身はたとい武蔵の野辺に朽ちぬともどめおかまし大和魂」(吉田松陰)。政治家にこの品性、気概を期待したいのだが、現実ほど遠い。

通常国会を総括すると国民の期待に

応えない上に議員の劣化が際立つ。

期待はずれといえ旧文通費(調査研究広報滞在費)の抜本的改革を先送り、逃げたことだ。

6月15日に通常国会が閉会になったが、旧文通費の使途公開等をまた先送りした。月100万円の旧文通費は議員の第2の財布と言われる。

今通常国会で結論を得ることになっていたが与野党は公開対象等で合意できなかった。日割りだけで逃げた。使途の制限、使途公開、未使用分の国庫返納をしたくないのだ。旧文通費はブラックボックスに入ったまま、有権者はチェック出来ない。議員は血税意識を欠いている。

議員の品性は

議員の劣化といえ、子供に説明できない低次元の話題に明け暮れ、上は衆議院議長から、下はパパ活の吉川 超衆議院議員までが週刊誌に糾弾され

た。

自民党の吉川超衆議院議員が18歳の女子大生へパパ活代金4万円支払い、酒も飲ませている、と報じられた。成年年齢は18歳に引き下げられたが、20歳未満の飲酒は禁止されている。

離党したが、辞職はしない。地元の自民党支部の辞職勧告、「地元の恥だ」「離党で良いのか」「隠れてないで出てこい」との世間の怒りを無視して雲隠れ。単に離党しただけでは税金の無駄遣いである。

吉川氏も10代の娘さんに「パパ活って何？」と聞かれたら困るだろう。通常国会では立憲民主党提案の議員辞職勧告決議案が衆議院で採決されなかった。「週刊誌の報道でしかない」と自

民党が難色を示したためだ。夏のボーナス290万円も支給された。諸物価高騰に苦しむ庶民、年金減額の高齢者は血税の浪費に怒りが込み上げる。

「民信なくんば立たず」だが、大切な

国民の政治への信頼はさらに失われる。吉川氏は比例復活である。「当然、自民党の議席だ。議員辞職を求めている」と(世耕参院自民党幹事長)。誰が鈴をつける？岸田総理だろうか、6月末までには前進はなかった。

岸田派のホープ？だが、小選挙区選挙に連敗。地元は代表にふさわしいとは思っていないのだ。早期議員辞職をすれば精神的に楽になるだろう。若いのだから、潔く議員辞職をした上で、禪宗の修行道場で修行し、性根を叩き直してもらったほうがよい。

国権の最高機関の権威は

国権の最高機関の権威は地に落ちた。情けない。

最低限の政治倫理の確立が求められる。

公明党エリート候補が自身の性交動画を違法公開していたと週刊誌が報じた。遠山清彦元衆議院議員の貸金業法

違反事件も思い出す。公明党は、クリー
ンな政治」を貫いてきたはずだが、与
党が長くなると「全ての権力は腐敗す
る」(アクトン)のだろうか。

ある小さな野党の幹事長も、かつて
立憲民主党にいたときに、コロナの
緊急事態宣言下に歌舞伎町のセクシー
キャバクラに行つて、離党に追い込ま
れている。

参院選後にも、週刊誌の餌食になる
当選者が出るだろう。ロシアのウクラ
イナ侵略というこの非常時に緊張感が
皆無だ。

かつての名君に政治家のあり方を学
ぶべきだ。

鷹山の政治姿勢と覚悟

上杉鷹山は1751年に日向高鍋藩
3万石の藩主の次男に生まれ、10歳で、
米沢藩主上杉重定の養子になる。米沢
藩はかつては120万石の名門だつた。
2度の減封で15万石に減らされた
が、藩士を減らさず、格式を落とさな
かった。そのため、鷹山が養子に來た
頃には全国1、2位を争う貧乏藩だつ
た。

藩士の窮乏も極まり、内職は当たり
前、中には武士の身分を放棄して帰農

するものもいた。借金は20万両。重定
は幕府への領地返上も考えた。

鷹山は養子になると。江戸の藩邸で
儒学者の細井平洲から指導を受け、帝
王学を身に付けた。

鷹山は17歳で家督を譲られたが、民
の父母になることを目指す。

数カ月後に白子神社へ
「連年國家衰微し、民人相泥み候。よつ
て大俊相行い、中興つかまつりたく祈
願つかまつり候。決断もし相怠るにお
いては、忽ち神罰を蒙るべきもの也」
と誓詞を奉納した。

この誓詞は内密に奉納された。今時
の政党や政治家が掲げる「改革」とは
覚悟が違う。

実際に大俊約令を出した。「居なが
ら亡びるを待たんより、君臣心力の尽
くるまで成るべきだけの大俊約をとり
行い候はば、もしも立ち行く事もやと、
この事叱きつと思ひ立ち候...



米沢城(上杉神社)に建つ
上杉鷹山像

- 1、参勤交代などの行列を減らすこと。
- 1、不断、木綿の着物を着ること。
- 1、平常の食事は、一汁一菜に限ること。

1、近親のものを始め軽品たりとも音
信贈答を固く禁ずること。

大節減を断行した。鷹山は自らの生
活費を7分の1の200両に減らし、
奥女中を50人から9人に減らし、一汁
一菜、木綿の着物で通す。率先垂範で
ある。

大藩の格式、しきたりにこだわる重
臣が公然と反対し、7人が鷹山に謁見
を求め、改革の即時中止、改革担当者
の処分等を求めた。

鷹山は大目付などの意見を聞いた上
で重臣を処断(切腹、隠居、閉門、減知)
した。

鷹山は厳しい儉約を続けながら農村
復興に挑む。士農工商の身分制社会な
のに、自ら鋤を持って、田疇を耕した。
また、藩士に農民と同様に新田開発に
当たさせた。天明の大飢饉でも米沢藩
は1人の死者も出ない。鷹山が備荒貯
蓄をやり、その米を使って領民を救つ
たのだ。

鷹山は、積極的な殖産興業にも取り
組む。例えば、越後から機織りの職人

を呼び、家中の女子に学ばせ、それか
ら武士、農民などに勧めた。武士の奥
方が蚕を飼つたりした。かの有名な米
沢織である。一村一品の元祖である。

武士が道普請をやつたりした。

鷹山は改革が軌道に乗り始めた
1785年、35歳で隠居し、重定の実
子の治広に譲る。21歳の治広に「伝国
の辞」という戒めの言葉を与えた。

- ① 國家は先祖より子孫へ伝え候う國家
にして、我私すべき物にはこれ無く候
- ② 人民は國家に属したる人民にして、
我私すべき物にはこれ無く候
- ③ 國家人民の為に立ちたる君にて、君
の為に立ちたる國家人民にはこれ無く
候

「民主主義」の精神だ。しかも、フ
ランスの人権宣言の5年前にだ。

鷹山は1822年に72歳で逝去。米
沢藩はその2年後、借金をすべて返済
財政は黒字に転じた。なせば成るのだ。
「三百諸侯中隨一の名君を亡くした」
(老中の松平定信) とその死は惜しま
れた。

現代の政治家も鷹山の志、実行力に
学ぶべきだ。高い地位にある者には高
い義務があると「ノーブレス・オ
ブリージュ」を想起すべきだ。